

## 第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク川崎東口保育園
経営主体(法人等)	(株)日本保育サービス
対象サービス	児童分野 保育所
事業所住所等	〒210-0023 川崎市川崎区小川町13-9
設立年月日	平成22年 4月1日
評価実施期間	平成26年 6月～ 平成26年12月
公表年月	平成27年 4月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	川崎市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p><b>【立地および施設の概要】</b> アスク川崎東口保育園は、平成22年4月に開園されて5年目を迎えています。ＪＲ線川崎駅から徒歩7分、近くに大きな映画館複合施設があり、ビルが立ち並ぶ繁華街の一角にあります。園舎は2階建ての独立した建物で、現在0～5歳児まで、定員80名が在籍しており、園目標「元気に、楽しく、のびのびと」のもと、明るく元気な子どもたちが育っています。</p> <p><b>【特徴】</b> 保育園は1階に砂地の園庭が、屋上には人工芝を敷き詰めた園庭があり、夏は大型プールを設置して水遊びを楽しんでいます。また、近隣の公園へ散歩に出かけています。子どもたちの「楽しむ心」や「学ぶ楽しさ」を育むため、幼児教育プログラムや、体操、リトミック、英語教室、クッキング保育などが行われています。</p> <p><b>【特によいと思う点】</b></p> <p><b>1. 子どもの体験を豊かなものに</b> 園長は子どもの目線に立った保育について折に触れ話し、職員は子どもたちの遊びの中に入っていき、ヒントを話し、遊びを楽しくしたり、おもしろくしています。園庭では野菜を育て、収穫を楽しむとともに、クッキングで茄子をピザの具にしたり、オクラでスタンプ遊びをしています。 また、川崎区の子どもフェスタの作品展や、町内会のお祭りなど地域の行事に積極的に参加したり、5歳児は川崎市黒川青少年野外活動センターでお泊り会を行い、すいかわりや、飯ごう炊飯、寝袋で寝るなど、子どもたちの体験が大きく広がっています。</p> <p><b>2. 様々なリスクを想定した安全対策</b> 火災や地震に備えて毎月避難訓練を実施し、津波や浸水を想定して近隣の立体駐車場への避難も訓練に取り入れています。また、防犯カメラを設置し、年に1度不審者役を系列他園男性園長に依頼して、不審者侵入対応訓練を行っています。通報時に慌てないで対応できるように、消防署と連携した通報訓練を全職員が行っています。保護者との連絡は、緊急時連絡票を用い、園の緊急用携帯電話で連絡をとることにしています。食物アレルギーにも対応した食料品を備蓄し、防災頭巾やヘルメット、土のうなども備えています。</p> <p><b>3. 地域のネットワーク参加による課題の明確化と取組</b> 園長が園長連絡会議や幼保小連携会議、発達支援コーディネーター会議に、担当職員が幼保小連</p>	

携会議や年長担当者会議に、そのほか主任保育士会議、看護師連携会議など、川崎市主催の会議に積極的に参加しています。事業に関する今後の展望や問題点、待機児童数や虐待や貧困など、地域の子どもの置かれる環境の変化について情報を得て、地域との関係の必要性や子どもの生活習慣の確立が課題であると認識し、今年度策定した中・長期計画に反映させて改善に取り組んでいます。

### 【さらなる改善が望まれる点】

#### 1. 子どもが遊びこめる環境設定の工夫を

園舎は余裕のある広さで、以前は0～2歳児室で子どもたちが落ち着かず走り回ったため、職員で話し合い、部屋をパーティションで仕切り、適度な広さに変更しましたが、仕切っただけで残りは物置になるなど有効活用されていません。発達に合わせた望ましい環境について職員で検討し、子どもが安全で主体的に遊べる室内の環境整備が望まれます。

#### 2. 職員とともに課題を抽出して解決に向けての話し合いを

開設5年目にあたり、園長が課題を踏まえて中・長期計画を作成しましたが、職員に周知されていないようです。職員とともに中・長期計画に基づいた単年度毎の事業計画を作成し、課題や計画について共通見解をもち、定期的に見直ししながら日常業務を改善して、保育の質を高めていくことが期待されます。また、中・長期計画に基づいて園運営がなされていることを、保護者にも伝えることが望まれます。

### 評価領域ごとの特記事項

#### 1. 人権の尊重

- ・理念や基本方針に子どもを尊重したサービスをうたい、人権に関する研修を受け、職員会議などで確認し、職員同士で注意しあい理解を深めています。
- ・日常保育にあたっては、園長は子どもの目線に立った保育について折に触れ話し、職員と共有して取り組みをしています。
- ・職員は性差への先入観による固定観念にとらわれずに、好きな色、好きな遊び、好きな役割を自分の意思で決定できる配慮をし、子ども同士のトラブルの際も双方の話を聞き、お互い納得のいくような配慮をしています。
- ・虐待について、「虐待対応マニュアル」で研修をして周知徹底し、登園時・更衣時に観察をして早期発見に努めています。また園長が窓口となって川崎市や児童相談所と連携体制をとっています。職員会議で虐待の事例対応を周知し子どもの観察や、保護者の様子に気を配っています。
- ・職員は、入職時に個人情報に関する研修を受け、全職員で共有し相互確認しています。「入園のご案内」（重要事項説明書）に個人情報の利用目的について明記し、保護者には入園時に、個人情報の取り扱い、ホームページ・園だよりへの写真や名前の掲載について説明し、書面で同意を得ています。

#### 2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・行事後にアンケートを取り、また、年2回個人面談を行い、利用者の意見や満足度を計っています。0、1、2歳児は個別の連絡ノートで、3歳児以上の保護者とは希望によりノートをやりとりしたり、送迎時に直接聞きとって対応しています。各クラスにおたよりポスト（なんでもそうだんポスト）を準備し、意向把握の方法の種類を多くしました。
- ・広い保育室で子どもたちが走り回ったため、部屋をパーティションで仕切り、適度な広さに変更したところ、けがが少なくなりました。また、遊びでは、「お友だちを押さないこと」というルールを作りました。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の時間が待ち遠しく、友だちと楽しく会話しながらおいしい食事が楽しめるような環境を目指し、給食室から食事のいい匂いが漂ってきて、給食当番が食事の準備をはじめ、配膳をして皆で「いただきます」の挨拶をして食べ始めます。</li> <li>・ 特に就学前の5歳児は、生活基本調査「もうすぐ1年生」をおこない、家庭での起床時間、排便など自分でチェックし、基本的な生活習慣を身につけられるように保護者と連携しています。また、保護者に対しては、朝ごはんの重要性を説明しています。</li> <li>・ 配慮が必要な子どもには、個別指導計画に基づき、設置法人の発達支援チームの巡回相談や関係機関と連携をとりながら保育を進めています。</li> </ul>
<b>3.サービスマネジメントシステムの確立</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入園説明会で保育サービス内容を具体的に記載した「入園のご案内」と「入園のしおり」を配付して、基本方針・園目標について説明をしています。また、親子面接を行い、園長と栄養士で補足説明をしています。</li> <li>・ 一人ひとりの発達・家庭環境を把握し、面談シートや児童票などを個人別にファイルにまとめ、複数の職員で共有し、栄養士・発達支援アドバイザーなどとも連携しています。</li> <li>・ 子ども、保護者のストレスや不安を軽減できるように、入園前面接で慣れ保育を勧め、また、入園後慣れるまで、愛着のあるものの持ち込みを認めています。全職員で新入園児の情報を共有し、子ども、職員、保護者の関係づくりを心がけています。</li> <li>・ 保育課程に基づき、年齢ごとの年間・月間指導計画・週案・日案を職員の振り返りや子どもの発達・関心、保護者の要望を尊重して作成し、日案、週案は天候や子どもたちの要望や状況を日々見ながら、柔軟に計画を変更しています。</li> <li>・ 個人記録は個人情報保護マニュアルや保存規程に基づいて管理され、事務所内の鍵付きの棚に保管し、職員はいつでも確認できますが、園外持ち出し禁止、事務所外持ち出しは園長の許可が必要です。児童票は、保護者の求めに応じて開示できることを、「入園のご案内」に明記しています。</li> <li>・ 毎月の職員会議で、各クラスノートを基に他クラスの子どもの状況を把握し、各会議の内容は、職員会議録に記載して出席できなかった職員と共有しています。</li> <li>・ 職員は採用時に業務マニュアルについての研修を受け、必要時に確認しながら、マニュアルに基づいてサービスを実施しています。</li> <li>・ 緊急連絡先、関係諸機関のリスト、職員の役割分担表が事務室に掲示してあります。「安全チェックリスト」を用いて、毎日職員が園内外の点検を行ない、また年数回近隣他園の職員とチェックし合う仕組みがあります。</li> <li>・ 転倒やかみつき、ケガの発生時はアクシデントリポートに記録し、対策を話し合い再発防止に努めています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務マニュアルは、業務のなかで出た改善案や、保護者アンケートの意見を含め、職員会議での意見交換を経て、園長会議で設置法人に報告し、見直し及び変更は設置法人が行っています。</li> </ul>
4.地域との交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい新聞」に載せて広報し、未就園児のいる家庭を対象に、毎月第1金曜日、園庭開放や身長・体重などを測定して育児相談に応えるサロン「のびのびクラブ」を開催しています。</li> <li>・町内会に加入しており、町内会の掲示板を利用して園の情報を発信しています。また、町内会のお祭りで、健康祈願のためおみこしをくぐらせてもらうなど、地域の行事にも親しんでいます。</li> <li>・近隣の映画館の立体駐車場を借りて、浸水避難訓練を行いました。また、卒園式に使うパイプ椅子を近隣映画館から借りるなど、連携があります。</li> <li>・ボランティア受け入れマニュアルがあり、受け入れ時には、プライバシーの尊重や守秘義務などをオリエンテーションで説明することになっており、その体制があります。</li> <li>・川崎区認可保育所園長連絡会、幼保小連携会議、園長・校長連絡会、発達コーディネーター会議に参加して、地域の福祉ニーズの把握に努めています。</li> <li>・年長児が年に2～3回、近隣4園と交流しています。</li> </ul>
5.運営上の透明性の確保と継続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前説明会で、「重要事項説明書」と「入園のしおり」をもとに運営方針と園目標を保護者に説明し、4月のクラス毎の懇談会でクラス目標、保育内容を説明しています。</li> <li>・地域に根差した保育園、基本的な生活習慣を身につける、様々な経験を通して感性豊かな子どもを育てる園を目指し、園長が5年の長期計画を作成しています。職員会議で職員に説明していますが、年度途中の見直しは行われていません。年度毎の目標がありますが、具体的な事業計画は作成されていません。</li> <li>・園長は、年に1度、理念や基本方針の確認を含む業務上必要な知識の確認を目的とした抜き打ちテストを実施して、周知状況を確認しています。</li> <li>・園長は、職員への面談やアンケート、職員会議などで職員からの意見の把握に努めています。</li> <li>・園長は、職員の役割分担を決め、効果的に人員を配置し、備品の購入の優先順位をつけ設置法人に申請したり、労務管理を行い、シフトの調整も行っています。</li> </ul>
6.職員の資質向上の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人は、園長の要請で人材の補充を行い、人員体制を整えています。</li> <li>・就業規則があり、職員の守るべき倫理・服務規程について入職時に代表が研修を行い、また社内通達などにより、随時更新されています。設置法人にコンプライアンス委員会があり、不正は直接通報できるしくみがあります。</li> <li>・実習生受け入れマニュアルに、オリエンテーションの実施方法などを定め、</li> </ul>



受け入れ窓口は園長で、育成担当は各クラスリーダーとしています。要望に沿った実習プログラムを立て、経過を報告しています。

- 職制と経験別の期待水準を明文化し、新卒、1年目、3年目、4年目以上、中途、主任、園長向けにそれぞれ階層別の必須研修が年間計画で組まれており、職員は前期・後期で個々に研修計画を作成して研修に参加しています。研修参加後はレポートを提出し、他の職員は閲覧して情報を共有しています。
- 職員は、自己の技術水準の達成度を園長との面談で把握し、また、年3回自己査定を行い、園長、エリアマネージャー、設置法人担当者が評価してフィードバックし、次期の研修計画の見直しや、報酬に反映しています。
- 遊びの環境、安全対策など、研修で得た事を反映して、保育に活かしています。
- 園長は保育日誌、指導計画などを定期的にチェックし、また職員の保護者対応や、子どもへの関わり方などを確認して、その都度アドバイスをして保育の質の向上に努めています。
- 園長は必要時職員と面談し、その他主任や設置法人企画担当者が相談にのっています。
- 園内に新卒チューター制度、中途採用チューター制度があり、その他職員の悩み相談窓口として、設置法人の企画担当職員やエリアマネージャー、臨床心理士や産業医、カウンセラーなどと職員が、個別に面談する体制があります。
- 組合制度、福利厚生制度があり、スポーツジム、リゾート施設の利用ができます。懇親会費の補助制度を利用して、行事後の打ち上げなどを行い、職員間の親睦を深めています。

## 川崎市福祉サービス第三者評価結果（認可保育所版）

対象事業所名（定員）	アスク川崎東口保育園 （ 80人 ）
経営主体（法人等）	（株）日本保育サービス
対象サービス	認可保育所
事業所住所	〒210-0023 川崎市川崎区小川町13-9
事業所連絡先	電話 044-233-5030
評価実施期間	平成26年6月～平成26年10月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

評価実施シート （管理者層合議用）	評価実施期間 平成26年6月18日～平成26年7月28日
	（評価方法） 園長以下管理者層（主任）が合議の上、園長がまとめました。
評価実施シート （職員用）	評価実施期間 平成26年6月18日～平成26年7月28日
	（評価方法） 管理者層を除く全職員が、個別に評価項目に従って記載し、無記名・密封の状態で評価機関が回収しました。
利用者調査	（配付日）平成26年7月1日 ----- （回収日）平成26年7月11日
	（実施方法） ・全園児の保護者に、アンケート用紙と返信封筒を園から渡して、園に回収箱を備え、無記名・密封の状態で評価機関が回収しました。
評価調査者による 訪問調査	評価実施期間（実施日）／平成26年8月20日・28日
	（調査方法） 調査1日目は調査員2名と事務局1名（書類確認）が訪問し、園内観察後子どもの観察、午後から園長・職員（2名）のヒアリングを行いました。2日目は園長のヒアリングを行いました。給食時は、子どもたちと一緒に食事をしながら会話をしました。

## 【施設の概要・特徴】

### <立地及び施設の概要>

#### 【立地】

アスク川崎東口保育園は、平成22年4月に開園されて5年目を迎えています。JR線川崎駅から徒歩7分、近くに大きな映画館複合施設があり、ビルが立ち並ぶ繁華街の一角にあります。園舎は2階建ての独立した建物で、現在0～5歳児まで、定員の80名在籍しており、園目標「元気に、楽しく、のびのびと」のもと、明るく元気な子どもたちが育っています。

#### 【特徴】

保育園は1階に砂地の園庭が、屋上には人工芝を敷き詰めた園庭があり、夏は大型プールを設置して水遊びを楽しんでいます。また、近隣の公園へ散歩に出かけています。子どもたちの「楽しむ心」や「学ぶ楽しさ」を育むため、幼児教育プログラムや、体操、リトミック、英語教室、クッキング保育などが行われています。

## [全体の評価講評]

### <特によいと思う点>

#### 1. 子どもの体験を豊かなものに

園長は子どもの目線に立った保育について折に触れ話し、職員は進んで子どもたちの遊びの中に入っていき、ヒントを話し、遊びを楽しくしたり、面白くしたりしています。園庭で野菜を育て、収穫を楽しむとともに、クッキングで茄子をピザの具にしたり、オクラでスタンプ遊びをしています。

また、川崎区の子どもフェスタの作品展や、町内会のお祭りなど地域の行事に積極的に参加したり、5歳児は川崎市黒川青少年野外活動センターでお泊り会を行い、すいかわりや、飯ごう炊飯、寝袋で寝るなど、子どもたちの体験が大きく広がっています。

#### 2. 様々なリスクを想定した安全対策

火災や地震に備え毎月避難訓練を実施し、津波や浸水を想定して近隣の立体駐車場への避難も訓練に取り入れています。また、防犯カメラを設置し、年に1度不審者役を系列他園男性園長に依頼して、不審者侵入対応訓練を行っています。通報時に慌てないで対応できるように、消防署と連携した通報訓練を全職員が行っています。保護者との連絡は、緊急時連絡票を用い、園の緊急用携帯電話で連絡をとることにしています。食物アレルギーにも対応した備蓄を用意し、防災頭巾やヘルメット、土のうなども備えています。

#### 2. 地域のネットワーク参加による課題の明確化と取組

園長が園長連絡会議や幼保小連携会議、発達支援コーディネーター会議に、担当職員が、幼保小連携会議や年長担当者会議に、そのほか主任保育士会議、看護師連携会議など、川崎区主催の会議に積極的に参加しています。事業に関する今後の展望や問題点、待機児童数や虐待や貧困など、地域の子どもの置かれる環境の変化について情報を得て、地域との関係の必要性や子どもの生活習慣の確立が課題であると認識し、今年度策定した中・長期計画に反映させて改善に取り組んでいます。

### <さらなる改善が望まれる点>

#### 1. 子どもが遊びこめる環境設定の工夫を

園舎は余裕のある広さで、以前は0～2歳児室で子どもたちが落ち着かず走り回ったため、職員で話し合い、部屋をパーティションで仕切り、適度な広さに変更しましたが、仕切っただけで残りは物置になるなど有効活用されていません。発達に合わせた望ましい環境について職員で検討し、子どもが安全で主体的に遊べる室内の環境整備が望まれます。

#### 2. 職員とともに課題を抽出して 解決に向けての話し合いを

開設5年目にあたり、園長が課題を踏まえて中・長期計画を作成しましたが、職員に周知されていないようです。職員とともに中・長期計画に基づいた単年度毎の事業計画を作成し、課題や計画について共通見解をもち、定期的に見直しをしながら日常業務を改善して、保育の質を高めていくことが期待されます。また、中・長期計画に基づいて園運営がなされていることを、保護者にも伝えることが望まれます。

## ＜サービス実施に関する項目＞

<p>共通評価領域 1 サービスマネジメントシステムの確立</p>
<p>＜特に良いと思われる点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災や地震に備え毎月避難訓練を実施し、津波や浸水を想定して近隣の立体駐車場への避難も訓練に取り入れています。また年に1度、不審者役を系列他園男性園長に依頼して、不審者侵入対応訓練を行っています。通報時に慌てることなくどの職員も対応できるように、消防署と連携し、実際に通報する訓練を行っています。</li> </ul> <p>＜更なる改善が望まれる点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデントを付箋に書き出して事務所に掲示して職員間で共有を図り、アクシデントリポートの記録も詳細になされています。さらに、発生要因、頻発する日時などの検証・分析を行い、再発防止の工夫が望まれます。</li> <li>・駅に近い繁華街に立地することから、散歩時想定も含め、警察や地域と連携した不審者対応訓練の実施が望まれます。</li> </ul>

<p>評価分類 (1) サービスの開始・終了時の対応が適切に行われている。</p>		A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎区の広報誌「ふれあい新聞」「こんにちは川崎区の保育園です」に園の情報を紹介し、設置法人のホームページは写真入りで、入園のしおりはイラスト入りでわかりやすい内容になっています。</li> <li>・見学希望に対しては、電話で予約受付し、園長が主任が案内しています。</li> <li>・入園前説明会で、重要事項説明書により基本方針・園目標、保育プログラムの内容や延長保育料金、持ち物などについて説明しています。</li> <li>・入園前の保護者面接で、園の方針やSIDSなどについて説明し、保護者の疑問、質問に答えています。事情が許す限り、個別に1週間から2週間程度の慣れ保育（初日は親子で一緒に過ごす、次の日は子どもだけ短時間、徐々に在園時間を延ばす）の予定を立てて実施しています。</li> <li>・年長児担任が区の幼保小実務者連携会議に出席し、小学校情報を懇談会で保護者に伝えています。</li> <li>・5歳児は川崎区配付の「もうすぐ1年生」に取組み、生活習慣を整え、保護者とともに就学への意識を高めています。保育所児童保育要録を作成し、園長と年長児担任で各小学校へ持参し情報交換をしています。</li> </ul>		
<p>評価項目</p>	<p>実施の可否</p>	
<p>① 保護者等（利用希望者を含む）に対してサービス選択に必要な情報を提供している。</p>	○	
<p>② サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。</p>	○	
<p>③ サービス利用開始後に、子どもの不安やストレスが軽減されるような支援を行っている。</p>	○	
<p>④ 就学がスムーズに行われるよう、保育の方法や保護者とのかかわりに配慮されている。</p>	○	



<b>評価分類</b> <b>(2) 手順を定め、その手順に従ったアセスメントを行い、サービス実施計画を策定している。</b>		<b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園時の子どもの心身や生活状況は「児童家庭調査票」や「児童健康調査票」、「お子さまの状況について」により把握しています。子どもの発達状況は、1、2歳児は毎月、3歳児以上は3か月毎に児童票に記録して、個別ファイルにまとめています。</li> <li>・指導計画はクラスリーダーを中心に担任が作成し、園長が確認をしています。児童票や個別面談記録をもとに、個別指導計画に子ども一人ひとりの具体的な目標が策定されています。</li> <li>・月1回の職員会議や、月2～3回のリーダー会議の中でケース会議を持ち、子どもの様子、保護者の意向を踏まえて話し合い、計画に反映させています。必要に応じ、栄養士、看護師のアドバイスを受け、また、気になる子どもについては設置法人の発達支援担当の巡回があり、対応方法やアドバイスを受けています。</li> <li>・週案は毎週、月間指導計画は毎月、年間指導計画は3か月ごとに振り返りを行い、確認しながら次の目標を定めています。クラス毎のミーティングで月案、週案についての反省、意見交換をして柔軟に変更しています。</li> <li>・日案、週案については、天候や子どもの要望や状況を見ながら必要に応じて変更しています。</li> </ul>		
<b>評価項目</b>		<b>実施の可否</b>
①	手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行っている。	○
②	指導計画を適正に策定している。	○
③	状況に応じてサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	○

<b>評価分類</b> <b>(3) サービス実施の記録が適切に行われている。</b>		<b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のサービス実施状況は、0、1歳児は生活記録簿に、2歳児以上は保育日誌に記録しています。その他午睡の記録は睡眠記録簿、18時以降に残る子どもの様子は延長保育日誌に記入しています。</li> <li>・児童票等の個人記録は保存規定に基づいて管理され、事務所内の鍵付きの棚に保管し、事務所外持ち出しは園長の許可が必要です。</li> <li>・児童票・保育所児童保育要録は、保護者の求めに応じて開示できることを「入園のご案内」に定めています。</li> <li>・個人情報保護マニュアルがあり、職員は入職時に研修を受け、守秘義務順守の誓約書を提出しています。</li> <li>・個人情報の取り扱いについては、設置法人の通達などをもとに会議で確認するほか、折りに触れ職員間で確認し合っています。</li> <li>・職員間の日々の引き継ぎは、0、1歳児が生活記録簿、2歳児以上は延長保育日誌およびクラス（申し送り）ノートに記録し、口頭でも伝達しています。確認した職員がサインをして、伝達を徹底しています。</li> <li>・月1回の職員会議でケース会議を持ち、他クラスの子どもの状況を把握しています。各会議の内容は議事録をとり、出席できなかった職員と情報共有しています。</li> </ul>		
<b>評価項目</b>		<b>実施の可否</b>
①	子どもに関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	○
②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○
③	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している。	○

<b>評価分類</b> <b>(4) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。</b>		<b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園業務マニュアル、感染症・食中毒対応マニュアル、衛生マニュアル、事故防止マニュアル、非常災害マニュアル、アレルギー食対応マニュアルがあり、採用時に研修を受け、必要時に確認しながら、マニュアルに基づいてサービスを実施しています。</li> <li>・保育園業務マニュアルに、子どもを尊重することやプライバシー保護について明文化されています。</li> <li>・園長がクラスに入り、保育の様子を確認して指導するほか、主任や職員間でもお互いに確認し合っています。</li> <li>・業務マニュアルは、業務のなかで出た改善案や、保護者アンケートの意見を含め、職員会議で意見交換をして、園長会議で設置法人に報告し、見直し及び変更は設置法人が行っています。</li> </ul>		
<b>評価項目</b>		<b>実施の可否</b>
①	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	○
②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	○

<b>評価分類</b> <b>(5) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。</b>		<b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急連絡先、関係諸機関のリスト、緊急時職員の役割分担表、事故、災害、感染症対応マニュアルがあり、事務室に常置して、職員はいつでも確認できるようになっています。</li> <li>・「安全管理チェックシート」を用いて毎日、週1回、月1回の点検項目を定めて職員が園内の点検を行い、また他園の職員とチェックし合う仕組みがあります。</li> <li>・毎月、火災、地震を想定し、避難訓練を実施しています。また年に1度不審者役を系列他園男性園長に依頼して、不審者侵入対応訓練を行っています。</li> <li>・保護者との連絡は、緊急時連絡票を用い、園の緊急用携帯電話で連絡をとることにしています。</li> <li>・消防署と連携して通報・消火訓練を行っています。津波や浸水を想定し、近隣の立体駐車場への避難を訓練に取り入れています。</li> <li>・賞味期限を記入した非常用食料品備蓄リストを作成し、食物アレルギー児にも対応できるものとなっています。乳児には防災頭巾、幼児にはヘルメットを用意しています。</li> <li>・インシデントは付箋に記録し、職員同士すぐに目に留まるように事務所に掲示しています。転倒やかみつき、ケガの発生時はアクシデントリポートを作成して記録に残し、対策を話し合っています。</li> </ul>		
<b>評価項目</b>		<b>実施の可否</b>
①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制が整備されている。	○
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	○
③	子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	○

## ＜サービス実施に関する項目＞

共通評価領域	
2 人権の尊重	
<p>＜特に良いと思われる点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は人権等に関する研修を受け、保育の中で虐待にあたることについて確認をし、職員会議等でわかり易い事例を出して理解を深めています。登園時・更衣時の観察などで虐待の早期発見に努め、疑わしい場合は、写真に撮って記録しています。園長が窓口となって川崎区、児童相談所など関係機関と連携体制をとっています。</li> </ul>	

評価分類		
(1) サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重してい		A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・性差への先入観による固定観念にとらわれずに、好きな色、遊び、役割などを自分の意思で決定できる配慮をしています。</li> <li>・集団に入りたくない子どもの気持ちを尊重し、強制的にならないようさりげなく声かけをし、子どもの意欲、やってみたい気持ちを引き出しています。</li> <li>・理念や基本方針に子どもを尊重したサービスをうたい、保育課程や保育園業務マニュアル内に明記し、職員間で共有しています。</li> <li>・「元気に 楽しく のびのびと」の園目標を基本姿勢とし、園長は子どもの目線に立った保育について折に触れ話し、職員と共有して取り組みをしています。</li> <li>・職員は入職時に「虐待対応マニュアル」で研修を受け、また川崎区の人権等に関する研修を受け、保育の中で虐待にあたることについて確認をし、職員会議等でわかり易い事例を出して理解を深めています。登園時・更衣時にはよく観察をして早期発見に努め、疑わしい場合は、写真に撮って記録しています。</li> <li>・川崎市の「人権オンブズパーソン」のポスターを園内に掲示し、職員や保護者の虐待防止に対する意識を高めています。</li> <li>・園長が窓口となって川崎区、児童相談所と連携体制をとっています。</li> </ul>		
評価項目		実施の可否
①	日常の保育にあたっては、個人の意思を尊重している。	○
②	子どもを尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	○
③	虐待の防止・早期発見のための取組を行っている。	○

評価分類		A
(2) 利用者のプライバシー保護を徹底している。		
<ul style="list-style-type: none"><li>・就業規則や保育園業務マニュアルの個人情報保護に関する事項をもとに、職員は入職時に研修を受け、規定は社内通達などにより随時更新し、職員会議で確認、周知徹底しています。</li><li>・「入園のご案内」（重要事項説明書）に個人情報の利用目的について明記し、個人情報の取り扱い、ホームページへの写真掲載や園だよりへの名前の掲載について保護者に説明し、書面で同意を得ています。</li><li>・児童票をもとに保育所児童保育要録を作成し、就学先に提出することについて、入園時と5歳進級時に保護者に説明しています。</li><li>・職員は子どもの甘えたい気持ちや寂しい気持ち、混乱している気持ちなどを受け止めて、スキップをし、落ち着くまで園長と事務所で過ごすなど、状況ごとの子どもの気持ちに配慮しています。</li></ul>		
評価項目		実施の可否
①	子どもや保護者に関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている。	○
②	利用者の気持ちに配慮した支援を行っている。	○

## ＜サービス実施に関する項目＞

<p>共通評価領域 3 意向の尊重と自律生活への支援に向けたサービス提供</p>
<p>＜特に良いと思われる点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任はできるだけクラス担当を持ちあがるよう配慮されており、子ども一人ひとりの発達状況を把握し、子どもや保護者と信頼関係を築いています。幼児の一人担任であっても、リーダー会議や日々の伝達で他のクラスの子どもの状況を共有し、複数の職員が目子どもを見て、連携して保育を行っています。</li> <li>・運営委員会やクラス懇談会、行事後にアンケートを取り、利用者の意見や満足度をはかっています。また、年2回個人面談を行い、保護者の意見を聞いています。0～2歳児は個別に連絡ノートを持ち、3歳児以上では保護者の希望によりノートをやりとりしています。各クラスにおたよりポスト（なんでもそうだんポスト）を準備し、意向把握の方法の種類を多くしました。日々の送迎時に、保護者と会話してコミュニケーションを図り、意見や要望を聞きとって対応しています。</li> </ul> <p>＜更なる改善が望まれる点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの要求に応えられないときは、園長は職員に対して、子どもが納得できるように理由を説明するように指導していますが、プログラムを優先して遊びを時間で切ってしまうことがあり、必ずしもできているとはいえません。本当に応えられない状況なのかを振り返り、子どもの気持ちに寄り添う姿勢について職員間で確認し合うことが期待されます。</li> </ul>

<p>評価分類 (1) 利用者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。</p>	<p>A</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会、クラス懇談会、七夕祭り、試食会、親子遠足や生活発表会などの後にアンケートを取り、利用者の意見や満足度をはかっています。また、年2回個人面談を行い、保護者の意見を聞いています。0～2歳児は個別に連絡ノートを持ち、3歳児以上の保護者とも希望によりノートをやりとりしています。各クラスにおたよりポスト（なんでもそうだんポスト）を準備し、意向把握の方法の種類を多くしました。</li> <li>・日常的には職員が送迎時に保護者と会話してコミュニケーションを図り、1日のエピソードを伝えられるように努めています。その中で意見や要望があれば聞き取るとともに園長に報告し、職員会議で解決策を話し合っています。</li> </ul>	
<p>評価項目</p>	<p>実施の可否</p>
<p>① 利用者満足の把握に向けた仕組みを整備している。</p>	<p>○</p>
<p>② 利用者満足の向上に向けた仕組みを整備し、サービス向上に取り組んでいる。</p>	<p>○</p>

<p>評価分類 (2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。</p>	<p>B</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情解決の仕組みは、入園のしおり、重要事項説明書に記載し、苦情解決の仕組みを一目でわかるようにチャートで示したものを玄関の見やすい場所に掲示しています。</li> <li>・子どもや保護者からの苦情に対して、その苦情の程度によって職員がその場で解決できる内容、職員会議で話し合う内容、設置法人を交えて検討する内容に区分し、設備の修理などその場ですぐ解決できる場合は園長が対応したり、職員会議で話し合った場合や設置法人に相談した場合は、経過を保護者に説明しています。</li> </ul> <p>＜コメント・提言＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情対応マニュアルの改訂は設置法人が管理していますが、園内では見直しはされていません。定期的に見直しをして、対応を確認することが望まれます。</li> </ul>	
<p>評価項目</p>	<p>実施の可否</p>
<p>① 子どもや保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。</p>	<p>○</p>
<p>② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。</p>	<p>○</p>
<p>③ 子どもや保護者からの意見等に対して迅速に対応している。</p>	<p>●</p>



評価分類 (3) 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている。		B
<p>・職員は、入園時に得られた生育歴や家庭状況等を参考に子どもの発達を捉え、園長の指導や職員同士注意し合って、穏やかな言葉遣いで子どもに接しています。</p> <p>・子どもの要求に対して、職員はその都度気持ちを受け止めて対応するように努力していますが、プログラムを優先して遊びを時間で切ってしまう等、必ずしもできているとはいえません。</p> <p>・朝夕の合同保育で、日常的に異年齢の子どもたちが交流して、思いやりや尊敬の念を育んでいます。また、町内会のお祭りに参加したり、5歳児は川崎市黒川青少年野外活動センターでお泊り会を行い、すいかわりやカード作り、飯ごう炊飯や、寝袋で寝たりし、子どもたちの体験が大きく広がりました。</p> <p>・職員は進んで子どもたちの遊びの中に入っていき、遊びの材料を出して、「何をして遊んでもいいよ」と話しながらヒントを話し、ちょっとした言葉がけで遊びを楽しくしたり、面白くしたり、配慮しています。</p> <p>・職員は障がい児保育に関する研修を受け、個別指導計画を立てて、どの子どもに対する接し方も自然にできるように配慮しています。設置法人の発達支援相談や、川崎市南部地域療育センターなどと連携し、相談しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子ども一人ひとりを受容し、その発達の過程や生活環境などの理解を深めて働きかけや援助が行われている。	●
②	様々な人間関係や友達との協同的な体験ができ、生活が豊かになるような環境が整備されている。	○
③	子どもが主体的に活動し、自分を表現し、他者の表現を受け入れる力が育つように支援している。	○
④	特別の配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。	○

## <サービス実施に関する項目>

共通評価領域 4 サービスの適切な実施	
<p>&lt;特に良いと思われる点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども一人ひとりの1日の状況は、0～2歳児は連絡帳に個別に記入し、保護者に渡しています。また、お迎え時にはできる限り保護者と話をし、子どもの様子を伝えるように努力しています。3歳児以上は、保護者が希望する場合は、別にノートを用意しており、個別に子どもの様子を伝えるようにしています。</li> </ul> <p>保護者にその日の子どもの様子を伝える手段として、延長保育日誌、伝達ノートを利用して確実に伝達できるように工夫しています。</p> <p>・自分の健康や衛生については、手洗い、歯磨きをよくすること、身体を清潔に保つことの大切さを伝え、職員が支援するとともに、保護者にも連携して行えるようにしています。特に就学前の5歳児は、生活基本調査「もうすぐ1年生」をおこない、家庭での起床時間、排便など自分でチェックし、基本的な生活習慣を身につけられるように保護者と連携しています。特に、保護者に朝ごはんの重要性を説明しています。</p> <p>&lt;更なる改善が望まれる点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広い保育室を仕切った空間の有効利用について職員間で話し合い、子どもの発達に応じた保育環境の見直しが期待されます。</li> </ul>	

評価分類 (1) 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている。		A
<p>・自分の健康や衛生については、手洗い、歯磨きをよくすること、身体を清潔に保つことの大切さを伝え、職員が支援するとともに、保護者にも連携して行えるようにしています。特に就学前の5歳児は、生活基本調査「もうすぐ1年生」をおこない、家庭での起床時間、排便など自分でチェックし、基本的な生活習慣を身につけられるように保護者と連携しています。また、保護者に対しては、朝ごはんの重要性を説明しています。</p> <p>・5歳児は原則、年明けから就学に備え昼寝はできるだけしないようにしていますが、睡眠不足の子どもが多いので寝かせることもあります。5歳児の保護者に対して、早寝早起きの習慣をつけるように、理解を求めています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	登園時に家庭での子どもの様子を保護者に確認している。	○
②	子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるよう支援を行っている。	○
③	休息（昼寝も含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している。	○
④	お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている。	○
⑤	保育所の保育に関して、保護者の考え方や提案を聴く機会を設けている。	○

評価分類 (2) 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。		A
<p>・入園直後の4月ごろは親と離れて不安になる子どもが多いので、職員のシフトを調整して子どもに寄り添い、安心して過ごせるよう配慮しています。子どもに人気の玩具を用意し、落ち着いて過ごせるようにしています。年長児が年少児の世話をする機会をつくるなどしてやりがいを持たせたり、「あと何分でお迎えに来るよ」など具体的に話して、子どもの気持ちに寄り添い、心の安定が保てるようにしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	○
②	年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている。	○

<b>評価分類</b> <b>(3) 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している。</b>		<b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の時間が待ち遠しく、友だちと会話しながらおいしい食事が楽しめるような環境を目指しています。給食室から食事のいい匂いが漂ってきて食欲を誘い、幼児クラスでは給食当番が誇らしく準備をし、皆で「いただきます」と声を合わせています。子どもにとって適量を盛り付けられており、好きなお友だちと一緒にテーブルで、ゆっくりと食事を楽しむことができるような雰囲気を作っています。</li> <li>・アレルギー対応食は、チェック表をもとに調理職員から担当職員へ除去の確認を重ね、またさらに配膳時にはテーブルを別にして、誤食のないように提供しています。宗教の違いで口にできない食材にも配慮しています。</li> <li>・保護者には毎月献立表を配付し、給食サンプルを事務所前に展示して、人気のレシピを提供しています。試食会を開催し、栄養士が、その日の献立を基に園で提供する夕食・補食のメニューを参考に家庭で夕食を考えると、1日に必要な栄養素、カロリーの目安になることを説明し、情報を提供して食への関心が高まるように努めています。</li> </ul>		
<b>評価項目</b>		<b>実施の可否</b>
①	子どもが楽しく、落ち着いて食事を取れるような雰囲気作りに配慮している。	○
②	メニューや味付けなどに工夫をしている。	○
③	子どもの体調や文化の違いに応じた食事（アレルギー対応を含む）を提供している。	○
④	保育所の食事に関する取組を保護者に対して伝える活動をしている。	○

<b>評価分類</b> <b>(4) 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている。</b>		<b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに、自分の健康や衛生については、手洗い、うがい、歯磨きをよくすること、けが防止のため、散歩時の交通ルール、友達を押さないなど状況ごとにルールを伝えています。</li> <li>・健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施し、結果は保護者に所見がなくても書面で知らせしています。職員は子ども一人ひとりの健診結果を参考にして、遊びや活動に支障がないかどうか判断しています。</li> <li>・「入園のしおり」に園児が罹りやすい感染症の情報を記載して説明し、毎月保護者に「保健だより」を配付して情報を提供しています。また、発生時には看護師が中心となり、玄関、各クラス入口の連絡ボードに感染症情報を掲示し、保護者に知らせるとともに口頭で伝え、感染予防に努めています。SIDSの予防には、うつぶせ寝の禁止や呼吸チェックをしています。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い保育室を仕切った空間の有効利用について職員間で話し合い、子どもの発達に応じた保育環境の見直しが期待されます。</li> </ul>		
<b>評価項目</b>		<b>実施の可否</b>
①	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている。	○
②	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それぞれの保育に反映させている。	○
③	保護者に対して感染症や乳児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている。	○

## ＜組織マネジメントに関する項目＞

### 共通評価領域

#### 5 運営上の透明性の確保と継続性

##### ＜特に良いと思われる点＞

・設置法人の園長会議、川崎区の園長会議に出席し、事業に関する今後の展望や問題点、「子ども生き生きドリカムプラン」などの施策の情報を得ています。川崎区役所から、待機児童数や虐待や貧困など、地域の子どもの置かれる環境の変化について情報が得られ、地域との関係の必要性や、子どもの生活習慣の確立が課題であると認識し、課題を今年度策定した中長期計画に反映させています。

##### ＜更なる改善が望まれる点＞

・職員の自己評価や、第三者評価受審後明らかになった課題解決に向け、職員とともに改善策を検討し、園の課題として職員一丸となって取り組まれることが期待されます。

・中長期計画実現のための事業計画は、達成度がわかりやすい数値目標などをいれて単年度ごとに作成し、職員と共に定期的に評価・反省をしながら実現に向けて取り組まれることが望めます。そしてその計画をもとに、園運営がなされていることを保護者に知らせることが望めます。

### 評価分類

#### (1) 事業所が目指していること（理念・基本方針）を明確化・周知している。

A

・理念・基本方針には、園が実施するサービスの内容や特性、使命や考え方が現れおり、設置法人ホームページや園のパンフレット、重要事項説明書に明示され、園の玄関に掲示しています。

・職員は、理念・方針について入職時に法人代表より研修を受け、年度初めの保育課程に基づく保育計画の作成時に、確認しています。

・入園前説明会で、「重要事項説明書」と「入園のしおり」をもとに運営方針と園目標を保護者に説明しています。4月のクラス毎の懇談会でクラス目標、年齢毎の保育内容を説明しています。

### 評価項目

実施の可否

①	理念・基本方針を明示している。	○
②	理念・基本方針について、職員の理解が深まるような取組を行っている。	○
③	理念・基本方針について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取組を行っている。	○

### 評価分類

#### (2) 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる。

B

・今年度第二期中長期計画を新たに策定し、地域に根差した保育園、基本的な生活習慣を身につける、様々な経験を通して感情豊かな子どもを育てることを目標にしています。

・園の立地により地域との関係の必要性や、区の実施した調査により、生活習慣の確立が課題であると認識しています。

・年度ごとの計画には、具体的な実施目標が記載されておらず、事業計画はありません。

・計画に基づき、自治会や近隣他園児との交流、園長が市や区のネットワークに積極的に参加して情報を得、お泊り会を外部施設で行うなど、徐々に実行しています。

・本年度、まだ年度途中の見直しは行われていません。

・今年度の中長期計画は園長が設定し、職員会議で職員に周知しました。

・入園説明会で年間行事計画を、懇談会で園の取組と地域との交流実施報告をしていますが、中長期計画に基づく事業計画という観点では説明していません。

##### ＜コメント・提言＞

・中長期計画実現のため、単年度ごとの事業計画を職員とともに策定し、保護者にも周知することが求められます。

評価項目		実施の可否
①	理念・基本方針の実現に向けた中・長期計画が策定されている。	○
②	中・長期計画を踏まえた年度単位の事業計画が策定されている。	●
③	事業計画の策定が組織的に行われている。	●
④	事業計画が職員に周知されている。	●
⑤	事業計画が保護者等に周知されている。	●

評価分類 (3) 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている。		A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務マニュアルに園長の役割が明文化されており、会議や園内研修において管理者としての考えを職員に伝え、園の代表として設置法人に意見を述べる立場であることを表明し、実践しています。</li> <li>・園長は保育日誌、指導計画などを定期的にチェックし、また職員の保護者対応や、子どもへの関わり方などを確認して、その都度アドバイスをして質の向上に努めています。</li> <li>・園長は、職員への面談やアンケート、会議などで職員からの意見の把握に努めています。</li> <li>・必要に応じ臨時職員会議を招集し、問題を提起し、対応策を話し合っています。また、園長会議で聞いた他園の取り組みを職員会議で伝え、自園に合ったところは順次取り入れています。</li> <li>・園長は各クラスから求められる備品を設置法人に申請したり、適正人事配置、勤務状況、電気代などをチェックして、園運営を管理しています。</li> <li>・園長は職員の意向を確認しながら担任の組み合わせや、係の役割分担を決め、各担当が話し合って担当業務を進めています。</li> <li>・園長は議事を事前に掲示するなどして会議を効率化し、シフトの組み方を工夫して業務の効率化と、職員間の連携を図っています。</li> </ul>		
		実施の可否
①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	○
②	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	○
③	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	○

評価分類 (4) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。		B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は年3回自己評価を行い、人事考課に反映させています。毎年第三者評価を受審しており、園長・主任が中心となって園全体の質の向上を目指しています。</li> <li>・第三者評価を受審後、園長、エリアマネージャー、設置法人企画部と評価結果について検討し、課題を抽出して園長が職員会議で報告し、全員で課題を確認していますが、具体的に改善策、改善計画などの策定はしていません。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt; 職員の自己評価や、第三者評価受審後明らかになった課題解決に向け、職員とともに改善策を検討し、園の課題として職員一丸となって取り組まれることが期待されます。</p>		
評価項目		実施の可否
①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	○
②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	●



評価分類 (5) 経営環境の変化等に対応している。		B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置法人の園長会議、川崎区の園長会議に出席し、事業に関する今後の展望や問題点、「子ども生き生きドリカムプラン」などの施策の情報を得ています。</li> <li>・ 川崎区役所から、待機児童数や虐待や貧困など、地域の子どもの置かれる環境の変化について情報が得られます。</li> <li>・ 光熱費や消耗品費、人件費などのサービスのコスト分析や利用者の推移、利用率の分析などは、設置法人が行っています。</li> <li>・ 園長会議で得た設置法人の新園開設状況や、安全への取組の問題点・改善点を職員に伝えています。</li> <li>・ 事業計画が無く、改善に向けた取り組みが、園として具体的な計画に反映されていません。</li> </ul> <コメント・提言> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のネットワークから把握された施策変更や福祉ニーズをもとに、中・長期計画や事業計画に反映させて課題に取り組むことが期待されます。</li> </ul>		
評価項目		実施の可否
①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	○
②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	●

## <組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域
6 地域との交流・連携
<特に良いと思われる点>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入し、町内会の掲示板を利用して園の情報を発信しています。第三者委員を町内会長に委嘱し、園行事に招待して保護者に紹介しています。町内会の夏祭りには園児たちも参加し、近隣映画館の駐車場を浸水時の避難場所に想定して避難訓練をしたり、卒園式に使う椅子を借りるなど、関係を築いています。また、地域のイベントに積極的に参加したり、5歳児は、年2～3回、地区4園の年長児の交流会に参加し、地域の子ども同士につながりが持てるようにしています。</li> </ul>
<更なる改善が望まれる点>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回第1金曜日に未就園児のために園庭開放や、身長測定、体重測定をする「のびのびクラブ」を開催し、育児相談を行っています。今年度は参加者が1名でした。園見学は200件に上ることから、今後さらに地域への呼びかけを広く行って参加者を増やし、地域への貢献ができるような努力が望まれます。</li> </ul>

評価分類		A
(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
<ul style="list-style-type: none"><li>・川崎区の保育園で作成している「ふれあい新聞」に地域開放・子育て支援「のびのびクラブ」を載せて広報し、月1回第1金曜日に未就園児のために園庭開放や、身長測定、体重測定をし、育児相談を受けています。</li><li>・町内会に加入しており、町内会の掲示板を利用して園の情報を発信しています。</li><li>・第三者委員を町内会長に委嘱し、園行事に招待して保護者に紹介しています。</li><li>・ボランティアの受け入れは、マニュアルに沿って行っています。特に守秘義務やプライバシー保護に関しては、誓約書をもらっています。実習生を受け入れており、実習後も運動会の手伝いに来てくれています。</li></ul>		
評価項目		実施の可否
①	地域社会に対して、開かれた組織となるよう、事業所に関する情報を開示している。	○
②	事業者が有する機能を地域に提供している。	○
③	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	○

評価分類 (2) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		A
<ul style="list-style-type: none"><li>・川崎区主催の会議で、主任会議や発達コーディネーター会議、看護師会に参加して話し合っています。</li><li>・地域のネットワーク会議に積極的に参加し、地域の状況やニーズを把握しています。会議では、待機児童数の増加や虐待、子どもの貧困など、子どもを取りまく環境について話し合い、調査に協力してアンケートに取り組み、基本的な生活習慣を整える必要性を確認しています。</li><li>・地域で開催される子育てイベント、サンピアン川崎での保育まつり、教育文化会館での子どもフェスタや作品展に積極的に参加しています。</li></ul>		
評価項目		実施の可否
①	関係機関・団体との定期的な連絡会等に参画している。	○
②	地域の関係機関・団体の共通の課題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
③	地域の福祉ニーズを把握するため事業・活動に参加している。	○

## <組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 7 職員の資質の向上の促進
<p>&lt;特に良いと思われる点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験に応じ階層別に多様な内容の社内研修と、明確な人事考課制度があり、定期的に自己の目標と達成度を確認しながら質の向上に取り組むことができます。園として必要な外部研修にも園長が率先して参加し、職員も、園に足りないものや、自ら勉強したことを園内研修として発表しあい、質の向上に努めています。</li> <li>・職員のチューター、園長・主任、エリアマネージャー、企画担当、臨床心理士、産業医など、職員のメンタル面でのサポートをする、職員が相談できる体制が社内に整えられています。</li> </ul>

評価分類 (1) 事業者が目指しているサービスを実現するための人材構成となるよう取り組んでいる。	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人材育成ビジョン」があり、経験に応じ求められる役割・能力などが明文化されています。</li> <li>・設置法人が、保育士、栄養士、看護師などの有資格者を採用し、園長は設置法人に人材の補充を要請し、人員体制を整えています。</li> <li>・就業規則内に職員の守るべき法令・倫理事項が定められ、職員には入社時研修や園内研修にて周知され、社内通達などにより、随時更新されています。また、コンプライアンス委員会があり、不正は直接通報できるしくみがあり、更衣室に掲示して職員に周知しています。</li> <li>・職員は、年3回、経験に応じた考課基準をもとに自己査定を行い、園長、エリアマネージャー、設置法人企画担当者が評価してフィードバックし、次期の研修計画の見直しや、報酬に反映しています。</li> <li>・実習生受け入れマニュアルがあり、オリエンテーションの実施方法などを定め、受け入れ窓口は主任で、育成担当は各クラスリーダーとしています。実習中に依頼校の担当教員が来園し、実習の経過を報告しています。</li> </ul>	
評価項目	実施の可否
① 必要な人材や人員体制に関する具体的な考え方が確立している。	○
② 具体的なプランに基づく人材の確保に取り組んでいる。	○
③ 遵守すべき法令・規範・倫理等を正しく理解するための取組を行っている。	○
④ 職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格など）が連動した人材マネジメントを行っている。	○
⑤ 実習生の受入れと育成が積極的に行われている。	○

<b>評価分類</b> <b>(2) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</b>		<b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人作成の「保育士に求められる役割と能力」に、職制と経験別の期待水準を明文化しています。</li> <li>・新卒、1年目、3年目、4年目以上、中途、主任、園長向けにそれぞれ階層別の必須研修が年間計画で組まれています。これをもとに職員は、前期・後期で個々に研修計画を作成し、必要な研修に参加しています。また職員は、自己の技術水準と期待される水準との差を園長との面談で把握し、研修計画に反映させています。</li> <li>・研修に参加できない非常勤職員には、議事録、伝言ノート、主任やクラスリーダーによる実地指導が行われています。</li> <li>・園長や法人の研修担当者が、研修が計画通りに受講されているか管理しています。</li> <li>・研修参加後はレポートを提出し、他の職員は閲覧して情報を共有したり、園内研修として園の職員に向けて発表する機会があります。</li> <li>・設置法人は、職員に研修後にアンケートをとり、研修内容の見直しをして、ニーズに合った効果的な研修計画を作成しています。</li> </ul>		
<b>評価項目</b>		<b>実施の可否</b>
①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	○
②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	○
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	○

<b>評価分類</b> <b>(3) 職員の就業状況に配慮がなされている。</b>		<b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の就業状況については出勤簿等を基に、園長と設置法人で出勤状況や有休消化状況、残業時間を把握して、適切な労務管理に努めています。</li> <li>・園長は必要時職員と面談し、そのほかに主任や設置法人企画担当者が相談にのっています。</li> <li>・園長、エリアマネージャーや設置法人企画担当者が改善策を検討し、職員は毎年メンタルヘルスチェックを受けたり、担当変えや転勤することもあります。</li> <li>・新卒チューター制度、中途採用チューター制度があり、相談しやすい仕組みがあります。</li> <li>・職員の悩み相談窓口として、設置法人の企画担当職員やエリアマネージャーと、個別に面談する体制があります。その他設置法人に臨床心理士や産業医、カウンセラーなどに職員が相談できる仕組みになっています。</li> <li>・組合制度があります。</li> <li>・福利厚生制度があり、スポーツジム、リゾート施設の利用ができます。職員懇親会費の補助制度を利用して行事後の打ち上げなどを行い、職員間の親睦を深めています。</li> </ul>		
<b>評価項目</b>		<b>実施の可否</b>
①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	○
②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	○

# 認可保育所 家族アンケート

平成26年 7月30日

対象事業所：アスク川崎東口保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

●アンケート送付数（対象者数） （73）名

●回収率 （ 44 ）名

## サービスの提供

利用者調査項目		はい	いいえ	どちらとも いえない	無回答
1	子どもが生活する保育室は、落ち着いてすごせる雰囲気を整えられていますか。	98% ( 43 名)	2% ( 1 名)	0% ( 0 名)	0% ( 0 名)
2	保育中の発熱や体調不良、ケガなどの対応、保護者への連絡等は適切ですか。	95% ( 42 名)	0% ( 0 名)	5% ( 2 名)	0% ( 0 名)
3	食事・おやつなどのメニューは、子どもの状態に配慮された工夫がありますか。	95% ( 42 名)	0% ( 0 名)	5% ( 2 名)	0% ( 0 名)
4	日々の保育の様子が情報提供されており、保育について職員と話をすることができますか。	95% ( 42 名)	0% ( 0 名)	5% ( 2 名)	0% ( 0 名)
5	季節や自然、近隣とのかかわりが保育の中に感じられますか。	96% ( 42 名)	2% ( 1 名)	2% ( 1 名)	0% ( 0 名)
6	各種安全対策に取り組まれていますか。	98% ( 43 名)	0% ( 0 名)	2% ( 1 名)	0% ( 0 名)

## 利用者個人の尊重

7	お子さんは保育所で大切にされていると思いますか。	95% ( 42 名)	0% ( 0 名)	5% ( 2 名)	0% ( 0 名)
8	職員はあなたやあなたの子どものプライバシー（秘密）を守っていますか。	98% ( 43 名)	0% ( 0 名)	2% ( 1 名)	0% ( 0 名)

## 相談・苦情への対応

9	保護者が子育てで大切にされていること等について、職員は話を聞く姿勢がありますか。	100% ( 44 名)	0% ( 0 名)	0% ( 0 名)	0% ( 0 名)
10	要望や不満があったとき、第三者委員（保育所外の苦情解決相談員）などに相談できることを知っていますか。	78% ( 34 名)	20% ( 9 名)	2% ( 1 名)	0% ( 0 名)
11	保育所は、要望や不満などに、きちんと対応していますか。	93% ( 41 名)	0% ( 0 名)	7% ( 3 名)	0% ( 0 名)

## 周辺地域との関係

12	周辺地域、関係機関と園との関係は、良好であると思いますか。	89% ( 39 名)	0% ( 0 名)	11% ( 5 名)	0% ( 0 名)
----	-------------------------------	----------------	--------------	---------------	--------------

## 利用前の対応 【過去1年以内に利用を開始され、利用前に説明を受けた方に】

13	入園に際し保育所から受けたサービス内容や利用方法の説明は、わかりやすかったですか。	92% ( 23 名)	0% ( 0 名)	8% ( 2 名)	
----	---	----------------	--------------	--------------	--



## 平成 26 年度 川崎市第三者評価 事業者コメント（川崎東口）

### 【受審の動機】

開園 5 年目を迎え昨年に引き続き、第三者評価を受審いたしました。  
昨年と同じ評価機関に評価を依頼し一貫した調査を受ける事で、継続的に専門的かつ客観的な視点で評価していただき、運営方針である「利用者に本当に求められているサービスを提供する」ということを初めとした方向性が、確実に利用者に届いているかを把握していきたいというねらいが受審の動機です。  
地域に開かれた保育園として信頼を得ると共に、保護者が安心して自らの判断で保育園を選択するお手伝いが出来ればと考えています。今後も保護者・子どもたち・地域に親しまれる暖かい保育園でありたいと思っております。

### 【受審した結果】

第三者評価を受審し、自己評価での個々を振り返り日々の「保育」そのものを見直す良い機会となりました。保護者の意見・第三者評価委員のご意見等を真摯に受け止め、園全体で、本園に通園する子どもたちに合ったサービスの向上・園運営を考え、より良い保育を提供できるよう、日々の保育を大切にし、保育の質の向上と共に保育士としての質の向上に努めてまいります。また、職員間での情報共有、議論などを交え、子どもにとってよりよい保育を目指して日々精進いたします。

最後に、第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

アスク川崎東口保育園          園長